

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:2022 年 3月 9日

事業所名 Ange west

保護者等数(児童数)19名 回収数19名 割合100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18 (95%)	1 (5%)			子どもがいるところを見たことがないため	指定基準の倍近くの広さがあり、活動ごとに机や道具を用意し、部屋が広く使えるように工夫しています。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	17 (89%)	2 (11%)			・足りてるのか足りてないのか判断材料がありません ・子どもがいるところを見たことがないため	10名に対し2名という基準以上の人数を(2名に対し1人)配置しています。事業所内でスタッフ、保護者向けの研修を年7回開催し、外部の研修にも参加しております。今後も専門性を高めるように努めます。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	13 (68%)	6 (32%)			・施設をじっくり見たことがないのでよく分かりません ・子どもがいるところを見たことがないため	トイレに少し段差がありますが、困難さはございません。基本、独歩できる方に利用していただいています。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	19 (100%)					
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	19 (100%)					
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3 (16%)	13 (68%)	3 (16%)		・コロナ禍の中通い始めたので通常を知りません ・わからないです ・コロナの為わからない	過去には夏祭りやハロウィンで他事業所と交流していましたが、コロナ禍の為、自粛しています。放課後児童クラブの管轄が教育委員会、活動の際責任の所在などの問題で難しい所です。活動についてはニュースレターやFacebookでも発信しておりますのでぜひご覧ください。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19 (100%)					
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	18 (95%)	1 (5%)				
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18 (95%)	1 (5%)				
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	13 (68.4%)	5 (26.3%)	1 (5.3%)			設立当初は年2、3回保護者向け座談会を設けておりましたが、仕事をお持ちの保護者が増え、参加がなくなりましたので現在は行っておりません。ご希望があれば再開いたしますのでお申し出ください。また、現在は年7回の研修や年1回のファミリーキャンプを開催しており、保護者同士の交流の場となっております。研修会後に参加された保護者同士で連絡先を交換されている方もいらっしゃいます。どうぞご参加ください。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	18 (95%)	1 (5%)			苦情があったとは聞いたことがないので分からない	
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18 (95%)	1 (5%)				
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	16 (84%)	3 (16%)				評価表の結果はホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。
非常時 等の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	17 (89%)	2 (11%)			分からない	
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	18 (95%)	1 (5%)				
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	18 (95%)	1 (5%)				
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	17 (89%)	2 (11%)				
	18	事業所の支援に満足しているか	18 (95%)	1 (5%)				

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2022年 3月 9日

事業所名 Ange west

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6 (100%)		利用者がのびのびと活動できるよう、物の配置、収納を工夫している。	
	2 職員の配置数は適切である	6 (100%)		子ども2人に指導員1人の割合で配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6 (100%)		トイレに少し段差があるが、困難はない。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6 (100%)		毎月のスタッフミーティング、ケースワーク会議、日々のミーティングで行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6 (100%)		年一回評価表にて保護者の意見を伺い、回答によっては会って個人的に意見を聞くなど業務改善への意識が高い。「どちらでもない」と回答した保護者には詳しく内容を伺い、できるところは法人内で改善策を考えている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6 (100%)		新たにホームページを作り変え、発信しやすくした。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5 (83%)	1(17%)	2年に1回実践報告会を実施し助言をいただいている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6 (100%)		研修の内容にも配慮があり、「どんな研修がいいか、何を知りたいか」などの質問項目がある。外部の研修も職員に周知して会社負担で参加している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6 (100%)		計画作成時に面談を行い、子どもの姿や保護者の意見を取り入れて計画を作成している。標準化された検査結果を提出いただくようお願いしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6 (100%)			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6 (100%)		毎日活動内容の立案者は報告・相談し、利用者が安全かつ楽しく活動できるよう立案し療育を行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6 (100%)		活動のアイデアを提案して、指導員同士で改善点を話し合う。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6 (100%)		休日は時間があるため、野外での活動なども取り入れている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6 (100%)		集団活動を中心に行っているが目標や対応は個別に行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6 (100%)		子どもが来所する時間までに本日する活動、する内容、前日の子どもの様子などを必ず報告し、打ち合わせをしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6 (100%)		子どもの様子の記録を行う際に振り返りを行う。送迎等でその場にはいない職員には業務日誌や特記事項ファイルに記入し、全員が情報を共有できるようにしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6 (100%)		活動の内容、子ども一人一人の様子を毎日記録している。ABAの記録の取り方を参考に客観的に書き見立てを検討している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6 (100%)		年2回(1月と7月)の面談前にモニタリングを行い、指導員全員で子どもの姿を記録し見直しをしている。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6 (100%)			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6 (100%)		児童発達管理責任者が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6 (100%)		学校側から直接の情報共有はないため、保護者にお願ひし情報をいただいている。大阪府交渉で学校への情報共有をお願いしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5 (83%)	1(17%)		現在医療的ケアが必要な子どもはいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6 (100%)		保護者からの申し出により、担当・担任の方と面談を行ったり、支援計画書を共有している。利用開始前の聞き取りや、見学等の受け入れ、以前利用していた園・事業所の職員も来所して当時と今の姿を比較し成長したところ等の話も聞いている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6 (100%)		保護者または事業所からの申し出により行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6 (100%)		必要な利用者には行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2 (33%)	4 (67%)		現在はなし。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6 (100%)		令和2年8月より参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6 (100%)		利用日には帳票でその日の様子を伝えている。それだけで伝えきれない時には電話にて連絡をしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6 (100%)		具体的な対応方法を伝えている。様々な内容の研修会を年5～6回開催し、その内先輩お母さんとの交流も行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6 (100%)		利用開始前の説明会で伝えている。また、変更部分があればその都度お知らせしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6 (100%)		相談があれば、随時帳票や電話で対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6 (100%)		年7回の研修、年1回のファミリーキャンプを開催し、保護者同士の交流の場を設けている。相談会も人が集まれば随時開催できることを周知した。	支援学校のサマーキャンプの手伝いをしていたが、コロナでなくなってしまった。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6 (100%)		苦情対応に関しては法人内で検討し、できることは対応し、保護者に説明している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6 (100%)		月一回ニュースレターを発行し、Facebookでも随時子どもの姿をアップしている。2022年2月からオフィシャルラインを使つての連絡も行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	6 (100%)		個人情報のファイルは鍵のかかるロッカーで保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6 (100%)		誤解を招かないためにも書面ではなく電話や対面でお伝えしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2 (33%)	4 (67%)	ハロウィンの時に地域の事業所にお願ひしてお菓子を配っていただいた。	以前は特別老人ホームへお茶点でだしの奉仕活動やクリスマス会など一緒に参加していたが、コロナの為中止になってしまった。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6 (100%)		職員にはそれぞれ保存版として配布、事務所に掲示を行っている。保護者には契約時に説明を行っている。感染症が流行する時期に再度手紙を配布している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6 (100%)		利用者は地域の学校とも連携して避難訓練を行っている。職員は月一回避難訓練を行い、防災研修も行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6 (100%)		年1回研修を行っている。虐待防止委員会を設置した。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6 (100%)		個別支援計画書に記載し、保護者にも説明をしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6 (100%)		以前エビペンを処方された子どもがいたときは医師を招いてエビペンの講習とアレルギーに対しての研修を行った。	該当する利用者はいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6 (100%)		事例集を作成し、ミーティングで事由を共有している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:2022 年 3月 9日

事業所名 Ange west 保護者等数(児童数) 0名 回収数 0名 割合 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている						
	2	職員の配置数や専門性は適切である						
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている						
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている						
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている						
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われている						
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている						
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある						
適切な支援の提供	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた						
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた						
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている						
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか						
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている						
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている						
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている						
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている						
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている						
非常時等の対応	19	個人情報の取扱いに十分注意されている						
	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている						
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている						
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている						
	23	事業所の支援に満足している						

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：2022年 3月 9日

事業所名 Ange west

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である				
	2	職員の配置数は適切である				
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている				
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している				
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている				
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している				
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している				
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している				
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している				
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている				
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている				
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している				
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している				
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している				
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している				
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている				
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している				
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている				
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある				
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している				
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている				
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている				
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている				
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している				
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している				
	38	個人情報の取扱いに十分注意している				
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている				
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している				
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている				
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している				
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している				
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている				
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				

〇この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。